

MEJ NEWSLETTER



■ 理事長 渋谷健司の企業訪問 第6弾 キヤノンメディカルシステムズ株式会社

2024年10月24日、キヤノンメディカルシステムズ株式会社(以下:キヤノンメディカル)を渋谷理事長が企業訪問しました。

キヤノングループは、プリンティング、イメージング、メディカル、インダストリアル の4事業で構成されています。今回、企業訪問をおこなったキヤノンメディカルは、メディカル事業を担っており、1914年に事業を発足して以降、100年以上にわたり医療機器の開発・商品化を通して医療にかかわる皆様に貢献されてきました。グローバル化も進んでおり、なんとグループ従業員の半数が海外の仲間構成されています。聞いたことがある方も多いかと思いますが、“Made for Life”というスローガンは、「患者さん・医療従事者の皆様と共に歩む」という価値観で、それを全世界の従業員と共有しているそうです。

グローバル販売サービス体制に関しては、2022年～2023年にかけてインドとサウジアラビアに現地法人の立ち上げを行われました。これにより14の現地法人と、その他の代理店で合わせて世界190以上の国と地域をサポートしているそうです。2027年7月にはミナリスメディカルの株式を取得し、体外診断領域における事業の強化も図っていらっしゃいます。



新製品のワイヤレス超音波診断装置をお見せいただきました。(Aplio air)

■近年のアクティビティ

製品力強化:画像診断機器においては先進のAI技術を用いて設計し、超解像画像再構成技術やノイズ除去技術などを実装した新製品の販売を開始しているそうです。MRIではAI技術を活かすためにマグネットをはじめとしたMRIの主要コンポーネントを全て一新したオールキャノン製3T MRIで売上拡大を実現されたとのこと。



超音波診断装置について説明を受ける
渋谷理事長。

販売力強化:2023年1月にキャノンヘルスケア USA, Incをクリーブランドに設立されました。アップストリームマーケティングの強化に取り組んでおり、さらに、DXを取り入れたより効率的な販売活動についても進めているそうです。また、新製品や新技術等をお客様に提供するCanon Medical Academyを元にして、オランダとアメリカに新しいトレーニングセンターを稼働させてプレゼンスの向上を図っていらっしゃいます。

将来のメディカルグループの目指す方向は、画像診断システム事業・ヘルスケア域事業・体外診断事業の3つの事業をさらに進化させることだそうです。長期的には再生医療やバイオ領域の間口を拡大することを目指していらっしゃいます。画像診断解析、体外診断、バイオ領域から医療情報をはじめ、さまざまな診断情報を融合させ、患者個人にとってより適切な治療をサポートするソリューションを提案し、プレジジョン・メディシンの発展に貢献することで事業領域の拡大につなげていくとご説明いただきました。



X線装置についても、臨床画像を見せていただきながらご説明いただきました。

■産官学連携の取り組み

2015年9月、MEJと旧東芝メディカルが協業して日露循環器病画像診断トレーニングセンター設立を設立されました。このトレーニングセンターは「日本の医療を輸出産業に」という経済産業省の医療国際展開加速化促進事業のひとつとして、MEJとともに実現したものになります。Angio CT、超音波装置、X線装置、ワークステーション等を導入してロシアの医師に対してトレーニングを実施して循環器診断・治療の技術レベルの向上を支援されました。

2018年9月には、ベトナムに日本式人間ドックセンターを設立されました。MRI、CT、超音波装置を導入し、病気の早期発見・治療など医療の発展に様々なかたちで貢献したいとお話されていたのが非常に印象的でした。

■日サの連携の取り組み

2023年、瀧口社長が岸田総理に同行してサウジアラビアを訪問されました。その後、日サの医療保健ワーキングが発足しました。医療保健ワーキングでの取り組みとしてキヤノンメディカルでは、予防医学の導入や、医療スタッフの育成による医療の質の向上を、提案しているそうです。医療機器だけではなく、さまざまな最新のテクノロジーによる医療ソリューションを提供することや、教育機関と連携して放射線技師や医療スタッフの人材育成のサポートを通して医療の発展を支えていきたいとご説明いただきました。

このような取り組みを各国で展開することによって、キヤノンメディカルは“Made for Life”を実践していきたいと考えていらっしゃるとのことでした。

MEJもME India立ち上げに向けて、現在デスクトップ調査やヒアリングを行っている最中ですので、キヤノンメディカルのインドにある現地法人からは、学ぶことが多いのではないかと考えています。今後、様々な形で協業することによって、インドでの事業拡大に貢献できれば幸いです。



左上から:キヤノンメディカルシステムズ株式会社 海外営業統括本部 海外事業企画部長 亀井氏、MEJ中期実践委員 木村、MEJ 広報 山口、キヤノンメディカルシステムズ株式会社 常務 グローバル営業統括部 副統括部長 森田氏、MEJ 渋谷理事長、キヤノンメディカルシステムズ株式会社 取締役 上席常務 総合企画センター所長 鉞氏、国内営業本部 クリニカル営業推進部 カスタマークリニカルサポート担当グループ長 堀江氏
左下から:MEJ 広報部長 呉原、キヤノンメディカルシステムズ株式会社 総合企画センター 経営企画部 主幹 杉山氏、国内営業本部 営業企画部長 小泉氏

～企業会員より一言～

「限られた時間ではございましたが、近年の諸外国の動向を踏まえ、日本としての医療インバウンド及びアウトバウンドの実態や学びを始めとした、グローバル・トピックスと共に、とても有意義な時間となりましたことに、感謝申し上げます。

今後は、さらに様々な規制やステークホルダーも含めた好循環が生まれ、日本の医療産業の加速的な盛り上がり期待しております。引き続き、ご指導の程、何卒宜しくお願い申し上げます。」

2024年11月8日、渋谷理事長がサクラグローバルホールディング株式会社を訪問しました。サクラグローバルホールディング株式会社は大きく分けてサクラファインテックグループ関連とサクラ精機グループ関連の2つの事業から成り立っています。

サクラファインテックはがん診断の迅速化・効率化を目指し、日本・米国・欧州・中国等を中心に病理・細胞診分野で活躍されており、サクラ精機は感染制御分野を中心に国際的な活動をしておられます。

今回の訪問では、まずサクラグローバルホールディングを訪問し、サクラグループ全体の歩みと、海外での事業展開について等のディスカッションを行いました。その後、サクラファインテックへ移動し、さくらぼ(ウェットラボ)や松本記念財団・ミュージアムを見学させていただきました。



サクラファインテックにある「さくらぼ」では、サクラグループの歴史ある沿革についてご説明いただきました。こちらには初の国産顕微鏡も展示されており、サクラグループの150年(江戸時代の薬種問屋の時代を含めれば400年余)の歴史を感じることができます。

また、こちらの施設はウェットラボになっており、どのように病理が行われているのかのプロセスや、それぞれのプロセスで使用されるサクラファインテックグループの製品についてご説明いただきました。なんと、日本においては80%の施設のがんの標本はサクラの装置で作られており、海外でも20~50%の割合でサクラの装置でがんの標本がつけられているそうです。



中でも、病理に出してからその日のうちに結果がわかるという「ワンデーパソロジー」の発想には渋谷理事長も大変関心を示し、国内医療機関では診療報酬などの制限があり、導入拡大にはいくつかのハードルはあるものの、インバウンドの受入れでは自由診療となるため、機器への投資も広がり、インバウンド医療での可能性を感じました。それと同時に、保険診療内で行う病理のデジタル化への課題も見えてきました。あうんテラスと呼ばれるオフィス内部や、松本ミュージアムでは、海外との交流・連携が広く行われていることの裏付けとなる数々の海外からの贈呈品を拝見した後、サクラ精機へ移動し、感染制御事業についてご説明をいただきました。



CSSD(中央滅菌サービス)は手術や治療で使用された医療器具の再生処理も含む院内のひとつの部門で、ここが機能しないと院内全体の医療行為に影響するととても重要な部門です。サクラ精機では、医療器具が無菌レベルで再生処理され安定的に院内供給されるようハード面・ソフト面で貢献していらっしゃいます。



こちらにある「サクラとぴあ」では、セミナーなど医療情報の発信だけではなく、CSSDの設計図を3Dに落とし込み、VR実空間の模擬体験や、そこからのCSSDプランニングの検討などが可能となっています。具体的なイメージができますので、感染に対する対策も事前に入念に行うことが可能です。

ご訪問後、場所を変えて、またまたワンデーパソロジーのお話から、インバウンド・アウトバウンドの今後についてなどフランクにお話させていただき、今回のご訪問を締めくくらせていただきました。



左から、サクラ精機株式会社 感染制御事業本部 マーケティング/商品開発部 部長 高見氏、国際事業本部 取締役本部長 間嶋氏、サクラファインテックジャパン株式会社 マーケティング本部 常務取締役 本部長 桜井氏、サクラグローバルホールディング株式会社 代表取締役社長 東氏、MEJ 渋谷理事長、同 広報 山口、サクラグローバルホールディング株式会社 代表取締役会長 松本氏、MEJ 広報部長 呉原、同 中期実践委員 木村氏、サクラファインテックジャパン株式会社 代表取締役社長 兼 CEO 石塚氏、同 マーケティング部 部長 長井氏、サクラグローバルホールディング株式会社 執行役員 パブリックリレーションズ室長 長谷川氏

<MEJ・渋谷理事長ご一行のご来社に当たり想ったこと>

— 歴史とロマン —

厳しい現実には生きていくからこそ、若い人々は未来にロマンを求め、年配の世代は歴史にロマンを感じる昨今かとも思います。

未来への企業戦略に思いをはせる一方で、過ぎし日のサクラの長い歴史の維持継続に力を尽くされた先人の労を思い出す意味でも、此の度のご来社には、あらためて深い謝意を表すものです。

更には、こうした気持ちがこれまでの「医療機器産業」から「トータルな健康・医療産業」への一層の脱皮を図りたいという想いにつながったとも申せましょう。

2024年11月吉日

サクラグローバルホールディング株式会社

松本 謙一

■ 2025年 企業訪問企画のお知らせ

企業訪問全7件の訪問が終了いたしました！本企画ではMEJが企業現場をよく知る機会だけではなく、代表の方々が直接渋谷理事長とお話いただくことで、様々な気づきがありました。また、その内容をニュースレターにて配信することで、より多くの方に企業の情報をお届けすることができたと考えております。

2024年に行われた企業訪問のニュースレターを読んで興味が沸いた、という方や、もう一度企業訪問してほしいという方を含めて、改めて2025年の企業訪問先を募集いたします。

一般社団法人 Medical Excellence JAPAN

理事長 渋谷健司による企業訪問



訪問期間: 2025年1月14日から6月30日まで

訪問対象: MEJの企業会員様

訪問内容: 企業現場の見学、取組紹介、意見交換など

募集締切: 2024年12月27日

ご希望の会員様は下記項目を記載の上、mejcs_pr@me-jp.orgまでメールをお願いいたします。

①企業名②ご担当者名③訪問希望日程④訪問希望内容⑤その他特記事項

編集後記

皆様こんにちは、山口です。年内の配信は本号で最後となりました・・・！

先日、オフィスの近くにある文明堂のカフェでパンケーキをいただきました。パンケーキはどら焼きの皮みたいな感じで、もちもちでとても美味しかったです。文明堂といえばあのCMですよね。実は関東圏(東京だけ?)で放映されていたとのことで、先日、中四国の方とお話をしたら「そんな歌知らない」と言われて衝撃を受けました。

皆様もMEJのオフィスにお立ち寄りいただいた際は是非、文明堂カフェに行ってみてくださいね。(MEJのオフィスへはいつでも気軽にお立ち寄りください♪)

